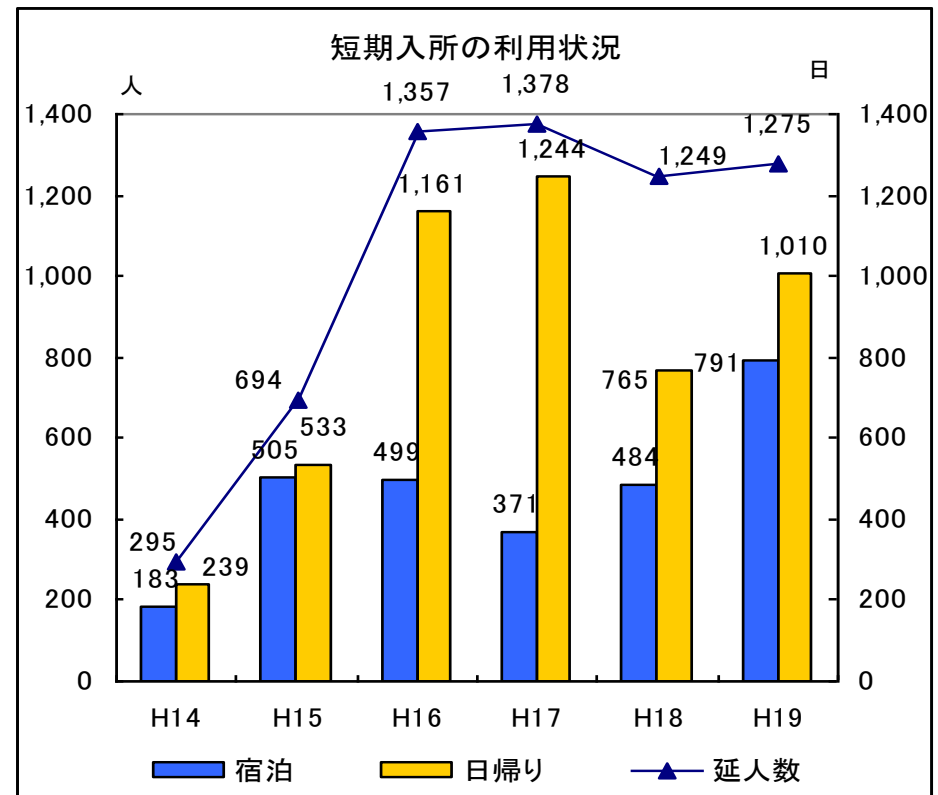
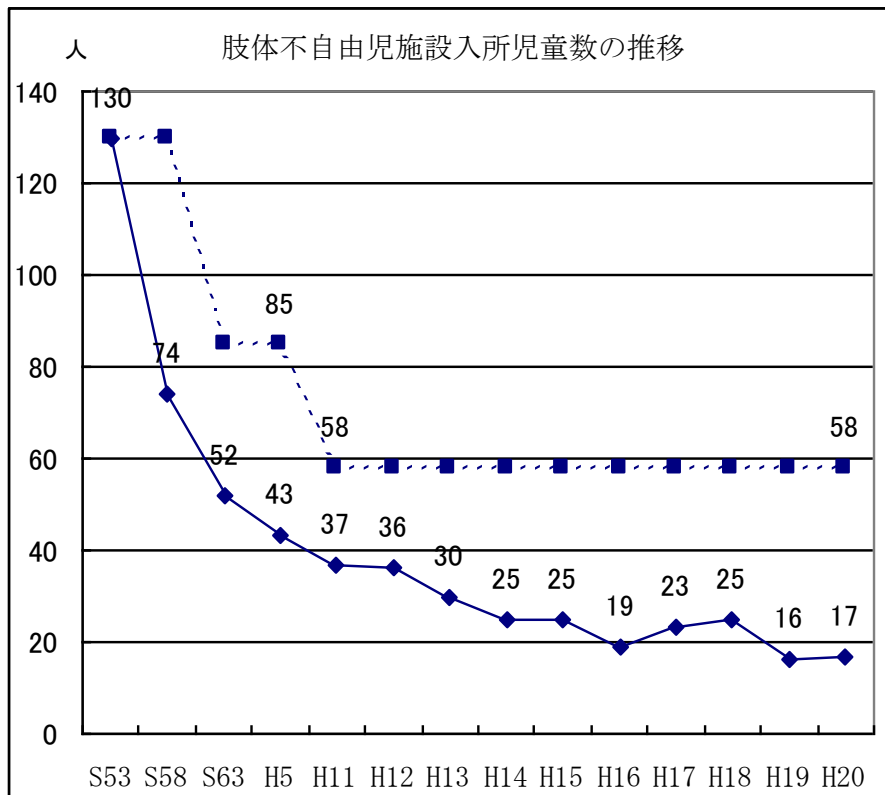


療育福祉センター(肢体不自由児施設)の 現 状 と 課 題

1 利用形態と利用者ニーズの変化

- ・措置や契約による入所児童数が、ピーク時(昭和53年130名)の10分の1程度にまで減少する一方在宅生活者の短期入所利用が増加
- ・障害の重度化・重複化した児童の利用が増加(重心施設対象児の混在)



2 病院機能のあり方と医師確保の課題

- ・小児科医・麻酔科医の常駐や術後のモニタリングなど、手術後の管理体制等に課題
- ・手術を安全に行うための麻酔科医や小児整形外科医の確保が困難
- ・医師不足により病院体制の維持が困難
- ・常勤医師の推移

	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
整形外科	3	3	3	3	3	3	3	3	2	1
小児科									1	1
精神科	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
計	4	4	4	4	4	4	4	4	4	3

3 障害児支援施策の見直し

- ・国では障害者自立支援法(附則)の規定に基づき、障害児支援施策の見直しを検討
- ・当センターにおいてもこれを踏まえた見直しが必要

療育福祉センター(肢体不自由児施設)の あり方の方向性

1 利用形態と利用者ニーズの変化に対応した 入所(入院)機能のあり方

- ・入所機能(定員)の見直し
- ・リハビリや短期入所等のための入所(入院)機能の確保

2 在宅支援の強化

- ・在宅で生活をしている肢体不自由児に対する支援
- ・身近な地域で専門的な訓練が受けられるよう、地域の医療機関と連携
- ・重症心身障害児・者の通園事業の実施

3 相談支援の強化

- ・障害のある人に対する総合的、専門的な相談支援機能の充実
- ・市町村、障害者施設、その他関係機関に対するスーパーバイザー

療育福祉センター(肢体不自由児施設)のあり方検討等の経過

当肢体不自由児施設の課題を解決するため、民間委員によるあり方検討会を立ち上げ、高知医療センターとの連携を軸に今後のあり方について議論するとともに、医師派遣について岡山大学に要請を重ねてきた。

19年度

- 5月 高知医療センター訪問
 - ・当センターの現状や直面する問題について説明
- 8月 岡山大学医学部教授訪問
 - ・当センターの現状や直面する問題、高知医療センターとの連携案について説明
 - ・医師の派遣を要請
- 12月 岡山大学医学部教授訪問
 - ・医師の派遣を要請 (→20年度は困難との回答)
- 3月 第1回県立療育福祉センター(肢体不自由児施設)の今後のあり方を考える会開催
 - ・療育福祉センターの現状と課題について説明

20年度

- 6月 第2回県立療育福祉センター(肢体不自由児施設)の今後のあり方を考える会開催
 - ・現状と課題について補足説明、検討の方向性(案)提示
- 7月 岡山大学医学部教授訪問
 - ・医師の派遣を要請
 - ・高知医療センターとの連携案について説明
- 9月 岡山大学医学部教授訪問
 - ・医師の派遣を要請
 - ・高知医療センターとの連携案について説明
- 12月 岡山大学医学部教授訪問
 - ・医師の派遣を要請

入所機能の見直しについて

● 病院機能の維持が困難な状況

1 利用形態と利用者ニーズの変化(再掲)

2 医師不足に伴う病院機能の著しい低下

- ・ 医師不足により病院体制の維持が困難(有床診療所化)

3 他診療科常勤医師の退職を回避する必要

- ・ 医師の減少により、病院体制維持に伴う常勤医師の負担が著しく増大
- ・ 医師が雪崩的に退職することは絶対に回避する必要があること

● 小児整形医の確保は困難な状況であるが、引き続き県内で肢体不自由児・者に対する医療が確保できること

● 入所機能を見直し、在宅生活者の支援を強化

利用者保護者への説明

◆入所児童保護者への説明会

- 実施日 21年1月23日
- 参加家族 5家族／17家族

◆入所児童保護者に対する個別面談

- 実施日 21年2月13日、16日
- 参加家族 12家族／17家族
 - ※ その他説明が必要な人には別途説明
- 利用者個々の状況に応じた相談・意見聴取
 - 将来(退所後)のこと
 - 費用負担のこと
 - その他手当支給にかかる手続きなど